

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第2号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第2号（5月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稲	ツマグロヨコバイ 萎縮病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病	並 - 並 -	並 並 並 やや多い

【普通作物 - 水稲】

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平成並、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬量は畦畔で0.44頭（平成：0.34頭、前年0.29頭）、休閑田で2.91頭（平成：1.94，前年：1.38頭）、小麦田で0.22頭（平成：0.98頭、前年0.33頭）であった。

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平成並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率は0.3%（平成：0.7%、前年：0%）であった（第1、2表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬量は平成並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

第1表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率（エライザ）

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	188	0	0	0	0
久留米市太郎原	188	0	0	0	0
朝倉町菱野	188	2	1.1	-	0.5
田主丸町益生田	188	0	0	0	0
山川町北関	188	1	0.5	0	0.5
黒木町木屋	106	0	0	0	0
筑後市馬間田	188	0	0	0	-
上陽町上横山	188	0	0	-	-
岡垣町黒山	188	3	1.6	0	0
行橋市長井	180	0	0	0	0
各地点の平均			0.3	0	0.1

「-」は実施せず

第2表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率の年次変動

年次	検定 地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1994	7	4	1186	3.54
1995	11	3	1863	1.93
1996	7	1	1317	0.08
1997	7	2	989	0
1998	8	2	972	0
1999	9	1	1179	0.08
2000	10	0	1252	0
2001	10	0	1471	0
2002	10	2	1828	0.11
2003	9	0	1359	0
本年	10	3	1790	0.32
平年				0.66

2001年までは幼苗接種法、それ以降はエライザによる検定

3 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬量は畦畔で0.07頭（平年：0.11頭、前年：0頭）、休閑田で0.45頭（平年：0.56頭、前年0頭）、小麦田で0.52頭（平年：1.73頭、前年0.10頭）であった。

4 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は4.0%（平年：0.9%、前年：4.6%）であった（第3、4表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬量は平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

本田初期における感染防止対策としては、箱施薬が有効である。

第3表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（エライザ）

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	83	1	1.2	5.0	0
久留米市太郎原	55	3	5.5	5.4	1.9
朝倉町菱野	188	6	3.2	-	4.2
田主丸町益生田	188	9	4.8	2.6	2.6
山川町北関	71	4	5.6	9.0	2.4
黒木町木屋	62	5	8.1	8.0	0
筑後市馬間田	54	1	1.9	-	-
上陽町上横山	54	3	5.6	-	-
行橋市長井	105	0	0	2.1	0
各地点の平均			4.0	4.6	1.6

「-」は実施せず

第4表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次変動

年次	検定 地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1994	7	1	1300	0.08
1995	11	4	2196	0.32
1996	9	2	1750	0.29
1997	10	1	1582	0.06
1998	9	5	1568	0.57
1999	7	1	777	0.41
2000	8	3	873	0.45
2001	8	3	769	0.65
2002	12	6	1087	1.20
2003	7	7	1178	4.58
本年	9	8	860	3.97
平年				0.86

2001年まではラテックス凝集反応法、それ以降はエライザによる検定

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ アブラムシ類	少ない やや多い 並	やや少ない やや多い 並
ナシ	黒星病 アブラムシ類	やや少ない 並	並 並
ブドウ	黒とう病	やや少ない	並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ	- - やや少ない	並 並 やや少ない
果樹共通	カメムシ類	多い	多い

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生葉率は18.3%（平年：6.5%、前年：5.0%）、発生ほ場率は43.8%（平年：32.9%、前年：60.0%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発病葉は見られない（平年：0.1%、前年：0.2%）が、芽基部に発病が見られた。

イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 芽基部に病斑が見られるほ場は多発する恐れがあるので、発病芽はできる限り取り除き処分する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発病葉率は0.2%（平年：1.0%、前年：0%）、発生ほ場率は18.2%（平年：14.6%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病葉、罹病新梢は発生源になるので、できる限り取り除き処分する。

4 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生枝率は1.3%（平年：4.4%、前年：11.3%）、発生ほ場率は46.2%（平年：49.3%、前年：76.5%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 現在越冬幼虫が新梢へ移動中なので、発生の多いほ場は開花前に必ず防除を行う。

イ 本虫は、薬剤がかかり難い場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。

ウ 開花前の防除はミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。

5 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 越冬量は平均4.7頭（平年：1.0頭、前年：0.3頭）であった。

イ 4月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。

（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 6頭（平年：14頭、前年：1頭）

ツヤアオカメムシ 13頭（平年：4頭、前年：4頭）

（調査地点：黒木町本分）

チャバネアオカメムシ 45頭（平年：5頭、前年：0頭）

ツヤアオカメムシ 10頭（平年：21頭、前年：1頭）

ウ 4月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 55頭（前7か年平均：100頭、前年：45頭）

ツヤアオカメムシ 5頭（前7か年平均：1頭、前年：0頭）

エ 筑紫野市吉木の予察灯への初飛来は、チャバネアオカメムシが4月5半旬、ツヤアオカメムシが4月3半旬で、ツヤアオカメムシは過去10年間では平成14年に次いで早い。

オ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 気温が上昇すると活動が活発となり、果樹園への飛来が多くなると予想されるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。特にビワ、ウメ、モモ、スモモは注意する。
- イ 防除薬剤は、県果樹病虫害防除の手引きを参照する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや多い 並 並	やや多い 並 並

【茶】

- 1 カンザワハダニ
 - (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多く、前年より多い
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月5半旬調査の結果、寄生葉率は5.9%（平年：3.2%、前年：1.2%）、50葉当たり寄生虫数は平均10.4頭（平年：8.2頭、前年：3.3頭）であった。また、発生ほ場率は73.1%と高い。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 発生状況をよく観察し、一番茶摘採後に早めの防除を行う。
 - イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

- 2 チャノミドリヒメヨコバイ
 - (1) 予報の内容
発生量：平年・前年並
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.1頭（平年：0.03頭、前年：0.04頭）の発生であった。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。

- 3 チャノキイロアザミウマ
 - (1) 予報の内容
発生量：平年・前年並
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.2頭（平年：0.3頭、前年：0.5頭）の発生であった。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	並 並 並 多い 並	並 並 並 多い 並

1 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均4.3%（平年：4.6%、前年：0%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均74.3%（前年：1.1%、平年：11.6%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

5月の気象予報（1か月）

（予報期間4月24日～5月23日）

2004年 4月23日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 4月24日～4月30日
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 5月1日～5月7日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 5月8日～5月21日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
18.2	142.4	187.8	16.8	17.8	18.9

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp